



へブル語講座アウカルト

【ホサナ】

「どうか救ってください」(詩篇 118・25)

●「ホサナ」は新約聖書に五回使われています。そのいずれもが詩篇118篇25節からの引用で、「どうか救ってください」の訳です。「救ってください」が「ホーシーアー」、「どうか」が「ナー」、この二語が合わさって「ホサナ」と音訳されています。「ホサナ」は、神や王に対して「救い」を願うことばです。この詩篇118篇はユダヤの「仮庵の祭りの日」(秋の祭り)に歌われたよう

です。初めの六日間は一日一回、七日目は七回繰り返して歌われ、25節に来ると人々は祭りのきまり(レビ記23・40)に従って、なつめ椰子の葉(棕櫚の枝)を振って「ホサナ」と叫んだようです。

●ところが仮庵の祭りでもないのに、イエシュア(イエスのへブル名)がエルサレムへ入場するとき、群衆や子どもたちがイエシュアに対して「ダビデの子にホサナ」と叫びました。ヨハネの福音書では「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に」と叫んだと記されています。しかしそれを聞いた祭司長や律法学者たちが腹を立て、数日後にイエシュアを十字架にかけて殺してしまいました。群衆の「ホサナ」の叫びは主に届かなかったのでしょうか。いいえ、届かなかったのではなく、神の時ではなかったのです。やがてイスラエルの民が再び「ホサナ」と叫ぶ時が必ず来ます。終わりの日に、「どうか救ってください」という彼らの叫びに

応えるかたちで、キリストが再臨されるのです。

●ところで「ホサナ」と叫ぶ時になぜ、なつめ椰子(棕櫚)を振るのでしょうか。それは**イスラエルの王**に向かつて叫んでいるからなのです。イエシュアの系図の中に**タマル**という女性がいます(マタイ1:3)。彼女はカナン人でありながら、神の不思議な導きによってユダに息子を産みました(創世記38章)。そこからイスラエルの王**ダビデ**、イエシュアが生み出されます。この「タマルこそ「なつめ椰子」(へブル語の「ターマール」)という語彙なのです。(銘形秀則)

「ホサナ」は新約聖書に五回使われています。そのいずれもが詩篇118篇25節からの引用で、「どうか救ってください」の訳です。「救ってください」が「ホーシーアー」、「どうか」が「ナー」、この二語が合わさって「ホサナ」と音訳されています。「ホサナ」は、神や王に対して「救い」を願うことばです。この詩篇118篇はユダヤの「仮庵の祭りの日」(秋の祭り)に歌われたよう

です。初めの六日間は一日一回、七日目は七回繰り返して歌われ、25節に来ると人々は祭りのきまり(レビ記23・40)に従って、なつめ椰子の葉(棕櫚の枝)を振って「ホサナ」と叫んだようです。

●ところが仮庵の祭りでもないのに、イエシュア(イエスのへブル名)がエルサレムへ入場するとき、群衆や子どもたちがイエシュアに対して「ダビデの子にホサナ」と叫びました。ヨハネの福音書では「ホサナ。祝福あれ、主の御名によって来られる方に。イスラエルの王に」と叫んだと記されています。しかしそれを聞いた祭司長や律法学者たちが腹を立て、数日後にイエシュアを十字架にかけて殺してしまいました。群衆の「ホサナ」の叫びは主に届かなかったのでしょうか。いいえ、届かなかったのではなく、神の時ではなかったのです。やがてイスラエルの民が再び「ホサナ」と叫ぶ時が必ず来ます。終わりの日に、「どうか救ってください」という彼らの叫びに

応えるかたちで、キリストが再臨されるのです。

●ところで「ホサナ」と叫ぶ時になぜ、なつめ椰子(棕櫚)を振るのでしょうか。それは**イスラエルの王**に向かつて叫んでいるからなのです。イエシュアの系図の中に**タマル**という女性がいます(マタイ1:3)。彼女はカナン人でありながら、神の不思議な導きによってユダに息子を産みました(創世記38章)。そこからイスラエルの王**ダビデ**、イエシュアが生み出されます。この「タマルこそ「なつめ椰子」(へブル語の「ターマール」)という語彙なのです。(銘形秀則)

はじめに神は...

<p>牛の頭からできた文字です。</p>	<p>へブル語の最初の文字、 アーレフは Aleph</p>
<p>牛の頭に手をおきました。</p>	<p>イスラエルの祭司たちは祭司になるため、 初めに</p> <p>出エジプト記 29 章 10 節</p>
<p>大切なことが表されています。</p>	<p>ほかにも最初の文字 アーレフには、</p>
<p>人は救われるため、この御方を信じなければなりません。</p>	<p>それは釘を刺し通された二つの手、 十字架のイエス様。</p>

作・神田満

編集後記 (史料・機関誌委員会から)

ここ10年来、かつてなかった程の天変地異の災害、戦闘、私利私欲の世界情勢、富裕と貧困...そして今回の新型コロナウイルスの拡散とその猛威は、ついに、WHO(世界保健機関)の「パンデミック」(宣言)となり、私達の日常に一層の不安と恐怖を加えています。

私達クリスチャンは、いかに生きるべきか...主の前に、み言葉の中に静まり...私達自身がこの世にどっぷり浸かり、甘受し生きる罪を悔い改め、ゆるしと憐れみと救いと癒しの祈りを!

命は宝、命より大切なものはない!...でも命より大切なものが在る事を知る私達ですから! 詩篇46・10

発行所

宗教法人 日本神の教会連盟
東京都練馬区羽沢二丁目一九

練馬神の教会内

相原典之

発行者

沼 慎二

編集者

福岡県筑紫野市二日市北二丁目一八一六
日本神の教会連盟 二日市栄光キリスト教会
電話&FAX 〇九二(九二四)五〇九八